

自 平成23年4月 1日  
至 平成24年3月31日

## 平成23年度 事業報告書

〒104-0045 東京都中央区築地3-7-5

財団法人 **全国青少年教化協議会**

# 平成23年度 事業報告

自 平成23年4月 1日  
至 平成24年3月31日

## I 教化事業（公益目的事業1）

### 1 青少年教化推進事業

#### （1）仏教子ども会活動の推進事業

##### ①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

##### ②成道会全国こども大会の開催推進

平成23年12月8日前後の日曜日を中心に全国約90会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約8,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話など）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）など多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル及び消しゴム（読売新聞社、日本テレビ放送網からの助成品）を送付、青少協を通じて各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網

#### （2）青少年教化研修会等の開催事業

3月11日に発生した東日本大震災に際し、被災者への物心両面でのサポート、心のケアを行う人員の養成と派遣、子どもたちの心身のケアを目的とした支援活動を行うための講座を開催した。

##### ① 災害傾聴ボランティア養成「被災者支援のためのトラウマ対応緊急講座」開催

心の傷を受けた被災地の方々や、特にその中でも孤立しがちな子どもたちや高齢者の心のケアを念頭に、トラウマケアに関する専門家である精神科医の水島広子さんを講師に迎えて緊急講座を連続開催した。

※日時・会場＝①平成23年4月25日（月）東京会場 築地本願寺「振風道場」

②平成23年5月9日（月）京都会場 大谷婦人会館

③平成23年5月23日（月）東京会場 築地本願寺「聞法ホール」

※申込者多数のため追加開催

※講 師＝水島広子（水島広子こころのクリニック院長・アティテューディナル・ヒーリング・ジャパン代表）

※内 容＝○追悼法要

○トラウマケアに関する講義

○アティテューディナル・ヒーリング（AH）ワークショップ

○傾聴ボランティアガイダンス 他

※参加者＝約190名（3会場合計）

## ②「被災者支援のためのグリーフ（悲嘆）ケア入門講座」開催

東日本大震災発生から半年以上が経過し、被災者の方々の困難は、なお解決されることがないという現状があった。内なる悲しみや孤独に向かい合っている方のところに寄り添い、苦しみを和らげる支援の必要性から、グリーフ（悲嘆）ケアの第一人者である上智大学グリーフケア研究所所長の高木慶子さんを講師に迎えて入門講座を開催した。

※日 時・会 場＝①平成23年11月24日（木）東京会場 築地本願寺「振風道場」

②平成24年1月24日（火）仙台会場 仙台サンプラザホテル

※講 師＝高木慶子（上智大学グリーフケア研究所所長）

※内 容＝○追悼法要

○グリーフケアに関する講義

○グリーフケアに関するワーク 他

※参加者＝約60名（2会場合計）

## （3）青少幼年支援ネットワーク拡充事業

### ①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

#### A) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校など青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を、聞き取り調査した。

#### B) 不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集

てらネットENのネットワーク拡充に向け、不登校・ひきこもりの問題に取り組む寺院および民間団体に関する情報収集を、対面、インターネット、電話、刊行物を通じて行った。

#### C) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

各仏教系大学の児童研究会などを中心に、全青協の案内、研修会の案内などを送付した。また、サークル役員と日曜学校・子ども会の新たな展開方法について検討した。

### ②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

#### A) 「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。

※日 時＝平成24年2月8日（水）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動の活発化と継承について」

B) 活動助成

第6回「ほとけさまの絵コンクール」の後援および協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛を行った。

※ 公募期間＝平成23年12月～24年2月

※ 応募総数＝約200点

※ 選考委員＝久保田聖淳氏ほか

※ 入賞＝最優秀賞ほか15点

※ 主催＝大阪市仏教会／大阪青少年教化協議会

※ 後援＝全国青少年教化協議会ほか

C) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業のよみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、職員を出仕させ、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝平成23年5月26日（木）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

③加盟教団との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。また、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

A) 講師派遣

平成23年6月5日（日）	川崎大師仏教文化講座（神奈川県）
平成23年6月12日（日）	川崎大師仏教文化講座（神奈川県）
平成23年6月19日（日）	川崎大師仏教文化講座（神奈川県）
平成23年7月6日（水）	曹洞宗東北管区教化センター（秋田県）
平成23年7月22日（金）	日本仏教保育協会夏期保育講習会（東京都）
平成23年10月29日（土）	仏教教育学会20周年記念シンポジウム（京都府）
平成23年12月3日（土）	グリーンケアサポートプラザ・クレマチスの会（東京都）
平成24年2月28日（火）	静岡県仏教婦人連盟OG会・無憂樹の会総会（静岡県）

B) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加および協力

平成23年5月12日（木）	東日本大震災支援全国ネットワーク（東京都）
平成23年5月22日（日）	宗教者災害支援ネットワーク（東京都）
平成23年10月18日（火）	全日本仏教婦人連盟大会（東京都）
平成24年1月10日（火）	日蓮宗宗務院御用始め（東京都）
平成24年1月17日（火）	日本仏教保育協会新年会（東京都）
平成24年1月29日（日）	鎌倉てらこや正力松太郎賞受賞等祝賀会（神奈川県）
平成24年2月10日（金）	全日本仏教婦人連盟修正会（東京都）
平成24年3月24日（土）	シャンティ国際ボランティア会通常総会（東京都）

平成24年3月25日（日）

炎天寺一茶まつり50周年記念祝賀会（東京都）

#### （4）教化活動広報事業

##### ①インターネットによる情報収集及び発信

全青協の活動を広く一般に紹介するため、定期的にホームページの内容を更新して、各種の情報を提供した。

##### ②青少年教化活動者の活動内容の紹介

（3）ネットワーク拡充事業①（A）「青少年教化活動者の活動内容の調査」に伴って取材した内容を、随時『ぴっばら』誌に掲載し紹介した。また、ホームページ上でデータベースとして一般に公開した。

## 2 公益活動推進事業

#### （1）てらネットEN関連事業の実施

##### ①てらネットEN自助グループ「シンシア」の運営

1) 主にひきこもりやニートの当事者同士が集まり支えあう自助グループを毎月1回開催した。

※日 時＝平成23年4月27日／5月18日／6月22日／7月19日／8月25日／9月29日／10月5日／11月16日／12月14日／平成24年1月11日／2月22日／3月7日（毎月原則第4水曜日に開催）の14時～17時

※会 場＝東京都港区・光明寺

※内 容＝フリートーク・坐禅・念仏・ヨーガ・写経等、参加者が主体的に内容を決めていく。

##### 2) 「年末だからお掃除してみ隊」の開催

ひきこもりやニートの当事者を支援する一環として、当事者の居場所から社会に踏み出そうとしている若者たちの支援を目的に開催した。

※日 時＝平成23年12月14日（水）

※会 場＝光明寺（東京都港区）

※内 容＝境内の清掃、茶話会など。

##### ②てらネットEN自助グループ「シンシア」ブログの運営

ひきこもり当事者の自助グループの活動内容、その他情報をスピーディーにかつ広く公開するため、シンシア専用のブログを作成し随時更新した。

##### ③不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ——ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の

問題に取り組んできた。平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを始め、平成23年度は浄土真宗本願寺派東京教区基幹運動推進委員会との共催で開催した。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、また、仏教的な体験を通じて精神的な安定を得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行った。そして、参加者同士によるグループトークにより、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減することもねらった。尚、講演の内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図ると共に、同様の問題を抱える家族（親）に向けて有益な情報を発信するために公式ホームページおよび公式ブログを開設している。

※日 時＝平成23年6月29日／7月27日／8月31日／9月28日／10月26日／  
11月30日／12月28日／平成24年1月25日／2月29日／3月28日

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派東京教区基幹運動推進委員会

※講 師＝和田重良（NPO法人くだけけ会主宰）、西來武治（元千代田女学園中学高校長・僧侶）、松尾忠正（敬愛短期大学講師・僧侶）、石橋悦子（東京都発達障害センター専門相談員）、田中剛（雷門メンタルクリニック）、本持信慈（浄土真宗本願寺派東京教区スカウト指導者会・僧侶）、菱沼智明（こどもソーシャルワーカー、社会福祉士）、成田智信（NPO法人カフェ・デラ・テラ理事・僧侶）、畠中雅子（子どもにかけのお金を考える会）、野坂法行（日蓮宗大本山池上本門寺執事・大多喜南無道場道主）

※演題等＝講演：肩の荷をおろす時、こころの依りどころ～親の老いをどう生きるか～、孤から独へ～教師が子どもから教わったこと～、発達障害とひきこもり、「人」とどう繋がるか～ひきこもる人への訪問を通じて考える～、3Y「勇気・友情・夢（希望）」、引きこもることにも意味や価値がある？～一緒に考えてみましょう～、絆をつむいで～悲しみを粗末にしないグリーフケアの実践からの学び～、ひきこもり家族のライフプラン、晴れ晴れ・イキイキ生きるには～つながりといのちの不思議に気づく～

#### ④「寺子屋ふぁみりあ」のブログおよびホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」を月1回の頻度で開催した。ここでの講演内容を、参加者以外の同じ問題を抱える家族が共有し、問題の解決・軽減の一助となることを期してブログおよびホームページを運営して、講演内容を広く公開した。

#### ⑤就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝平成23年4月22日／4月26日／5月13日／6月23日／10月24日／  
11月29日／12月22日／平成24年2月24日の14時～17時

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『びっばら』の発送作業など軽度の作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力および作業スキルの向上を目指す。

#### ⑥相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮など青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。また、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

#### 2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患などの悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合などに随時面接を行った。

#### ⑦「てらネットEN」世話人会および連絡会議の開催

平成23年度てらネットEN連絡会議を開催し、てらネットENに加盟する寺院・団体の代表者が参加した。

※日 時＝平成23年11月28日（月）

※会 場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※議 題＝てらネットEN加盟各寺院・団体の活動の現況の報告および今後の活動の方向について

#### ⑧てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりや不登校について当事者および家族からの相談を受け付けてきた。より多くのひきこもりや不登校の問題を抱える当事者および家族に向けての広報のためのパンフレットと、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院などにおいては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりについての基礎的な知識や対処法などを掲載した小冊子を加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

#### ⑨「よのなか力アップゼミ」開催協力

ひきこもり当事者を対象としたセミナー・体験型の集いである「よのなか力アップゼミ」開催にあたり協力した。

※日 時＝平成23年4月13日（水）、5月11日（水）、6月26日（日）、7月17日（日）、9月19日（月）、10月29日（土）、11月27日（日）、平成24年1月25日（水）、2月12日（日）、3月13日（火）、3月18日（月）

※会 場＝東光院（千葉県印西市）、浦安市当代島公民館、千葉県西部防災センター、台東区生涯学習センター、不登校情報センター

※内 容＝セミナー（コミュニケーション術、メンタルトレーニング、ヒーリング）、体験（蕎麦打ち体験、防災体験、調理体験、農業体験など）

#### ⑩交流会「ひきこもるころ」開催協力

全青協はひきこもり当事者とその家族の双方から募集した手紙形式の親から子へ、子から親へのメッセージを朗読して、親と子の心境を考える会である交流会「ひきこもるころ」開催にあたり協力した。

※日 時＝平成24年2月25日（土）

※会 場＝光明寺（東京都港区）

### （2）海外子ども支援・国際交流の推進

#### ①国際子ども支援プログラムの運営（ぴっばら国際児童基金）

社団法人全日本仏教婦人連盟と提携し、ワラナシ（ベナレス）等でストリートチルドレンやスラムで暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営を行った。また、サルナートにおける被虐待児童のシェルターの運営、校舎の建設他、北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。

### （3）浄土宗報恩明照会「命とこころの電話相談室」開設事業協力

浄土宗報恩明照会が「命とこころの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力を行った。特に研修に関しては、講座の内容および講師の選定、全青協スタッフの出講を含めて全面的に協力した。

※開設日程＝平成23年4月4日～（以降毎週月曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

## 3 臨床仏教研究所運営事業

### （1）一般人を対象とした宗教や寺院に対する意識調査の分析

平成22年3月に実施した「一般人の寺院・葬儀等に関する意識調査」について、心理学・社会学的な観点から定例研究会において分析作業を行った。

### （2）「震災と宗教を考えるシンポジウム2011 ―もうひとつの生き方を探る」

#### 企画・運営

東日本大震災を契機に日本人の本来の価値観や生き方を模索し、災害時における宗教および宗教者の役割を考えるシンポジウムとして、各団体の協力のもと企画・運営し開催した。仏教精神による農村・地域開発の先駆者であるA・T・アリヤラトネ氏の基調講演のほか、仏教界や各界の識者を迎えてのパネルディスカッションを行った。



※日 時＝平成23年10月10日（祝）

※会 場＝浄土宗大本山増上寺「三縁ホール」

※内 容＝○基調講演：A・T・アリヤラトネ（スリランカ・サルボダヤ会代表）

○パネルディスカッション：〔パネラー〕玄侑宗久（作家・政府復興構想会議委員）、杉浦正健（弁護士・元法務大臣）、高木慶子（上智大学グリーンケア研究所所長）、島 蘭 進（東京大学教授・宗教者災害支援連絡会代表）〔コーディネーター〕神 仁（全青協主幹）

※呼びかけ団体＝財団法人全国青少年教化協議会、臨床仏教研究所、一般社団法人サルボダヤ JAPAN、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、財団法人浄土宗報恩明照会、宗教者災害支援連絡会（宗援連）

※参加者＝約220名

### （3）研究紀要・書籍の発行

第1回教化事例発表大会の発表内容を踏まえて、「有縁社会の創造」をテーマに、理事・研究員・大会発表者の寄稿により、研究紀要としての「臨床仏教叢書2」を刊行した。

※内 容＝発 題「バラバラ社会からツナガリ社会へ」奈良康明

論 文「つながりの社会に生きる」齋藤昭俊

「仏教者の自己と他者とのかかわり」石上善應

「仏教教化事業を支える諸師に賛辞を贈る」渡邊寶陽

「仏教者による社会活動の可能性」島蘭進

「スピリチュアルなつながり」鈴木晋怜

「個人の個の尊重と社会の無縁化」小谷みどり

「台湾の公共的仏教」ジョナサン・ワッツ

「死者と生者をつなぐグリーンケア」神 仁

ほか

※出版社＝白馬社

※部 数＝2000部

### （4）企業社員研修会の開催協力

協力企業の要請に応じ、仏教精神に基づく実践形式の社員研修会を開催した。

※日 時＝平成24年3月6日・7日（火・水）

※会 場＝大本山建長寺（神奈川県鎌倉市）

※内 容＝読経・法話・坐禅・写経・作務・マネジメント（講義）・傾聴ワークショップ・シェアリング他

※講 師＝建長寺スタッフ・全青協スタッフ

※参加者＝よみうりランド中堅社員他10名

## 4 出版事業

### (1) 機関誌『ぴっぱら』の発行状況

#### ①月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数
5-6	6,400	7-8	8,600	9-10	8,100
11-12	6,400	1-2	6,600	3-4	6,700

年間発行部数 42,800部  
平均発行部数 7,100部

#### ②『ぴっぱら』「特集」テーマ一覧

月	テーマ
5-6	震災によるトラウマのケア — 「つながり」こそが回復へのキーワード
7-8	子どもたちの笑顔に支えられて — 被災3ヵ月目の支援活動
9-10	今こそ、お寺で子ども会を！ — お寺はつながりの要となるか
11-12	もうひとつの生き方を探る — 震災と宗教を考えるシンポジウム2011
1-2	働く母が元気になるには…？ 子育て家庭をとりまく課題
3-4	宮沢賢治の夢 — 3・11からの再生

### (2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつりぬりえ、花まつりシール、風船、ポスター及び甘茶クッキーなどを頒布した。

#### ①教材の発行

##### A) 既存教材の増刷

- ※『ほとけさまのおしえ』=10,000部
- ※花まつりぬりえ=5,000部
- ※花まつり風船=11,000枚
- ※花まつりシール=14,000枚

#### ②教材等の製作

##### A) 甘茶クッキー

花まつりにちなみ、甘茶クッキーを「おかし屋ばれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

##### B) 甘茶クッキーパッケージ

甘茶クッキーのパッケージ20,000枚を新規デザインにより製作、使用した。

## II 表彰事業（公益目的事業2）

### （1）『正力松太郎賞』の実施

#### ①「第35回正力松太郎賞」の表彰

※表彰式＝平成23年5月31日（火）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者〔本賞〕＝○禿川瑛子師〔浄土真宗本願寺派真行寺前坊守／福岡県田川郡〕

○NPO法人 鎌倉てらこや

〔代表・池田雅之氏／早稲田大学教授／神奈川県鎌倉市〕

〔青年奨励賞〕＝○根本紹徹師〔臨済宗妙心寺派大禅寺住職／岐阜県関市〕

〔奨励賞〕＝○今里晃玄師〔浄土真宗本願寺派教専寺住職／香川県坂出市〕

○中西玄禮師〔浄土宗西山禅林寺派管長／兵庫県姫路市〕

○杉の子子ども会〔代表・角出好隆師／浄土宗長泉寺住職／三重県伊賀市〕

○仙法志明照園日曜学校

〔代表・工藤浄真師／浄土宗専称寺住職／北海道利尻郡〕

○アジア仏教徒協会 ASI AFUND「ABAミャンマー子ども基金」

〔代表・茨木兆輝師／曹洞宗西蓮寺東堂／長崎県佐世保市〕

#### ②「第36回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成23年9月公募開始、同年12月15日締め切り。

※選考会日時＝平成24年3月15日（木）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

本賞2件、青年奨励賞1件が下記のように決定。

※受賞者〔本賞〕＝○杉の子子ども会〔代表・角出好隆師／浄土宗長泉寺住職／三重県伊賀市〕

○一般社団法人 水月会

〔代表・本多隆法師／真言宗智山派来福寺住職／東京都品川区〕

〔青年奨励賞〕＝○社会慈業委員会 ひとさじの会

〔代表・渡部教道師／浄土宗安養寺副住職／東京都江戸川区〕

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網、よみうりランド、報知新聞社

※表彰式＝平成24年5月31日（木）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

### （2）表彰の実施

青少年に関する活動を行っている各種仏教団体等主催表彰事業への協力

①曹洞宗主催「第45回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。

②大正大学書道研究部主催「第60回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。

- ③炎天寺一茶まつり委員会主催「平成23年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

### III 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際して緊急支援事業および継続的な支援プロジェクトを行った。

#### （1）東日本大震災緊急・復興支援事業

東日本大震災発生後、災害支援対策センター（仙台市若林区）および災害ボランティア・センター（仙台市宮城野区）を設置し、それぞれを拠点として、岩手県、宮城県、福島県の被災者を対象として緊急・復興支援活動にあたった。

##### ① 緊急支援活動

東日本大震災発生直後から夏にかけて、被災3県の避難所等をまわり、被災者のニーズ調査を行った上で、継続的に食料をはじめとする支援物資の配布や炊き出し、支援金の送付などを行った。

##### ②「会津で遊ぼう！～こども自然ふれあい広場～」開催

東日本大震災に伴う原発事故によって日常を奪われた家族、特に福島県内被災地域の子どもたちに焦点を当て、会津地方を中心とする放射線量の低い屋外空間での遊び場所と機会を提供、子どもたちの健全育成と心身のケアをはかる1泊2日のサマースクールを開催した。曹洞宗福島県青年会との共催による。

※日 時＝平成23年8月3日（水）～4日（木）

※会 場＝さゆり運動公園、福島県会津自然の家（宿泊）

※内 容＝○バーベキュー、アスレチック、プール ○キャンプファイヤー ○会津鶴ヶ城見学、坐禅体験など

※参加児童＝64名

※子どもの参加費無料

##### ③「福島子ども妊産婦支援プロジェクト」推進

加盟する全国の寺院において、福島原発事故による放射線の影響が懸念されている地域に居住する、中学生以下の子どもと妊産婦の方を随時受入れ、お寺での保養をしていただくプロジェクトを行った。

##### ④高齢者の孤独死・自死防止活動

被災地の仮設住宅を定期的に巡回しながら、集会所や談話室等でハーブティーサロンやネイル・ハンドケアサロンを開催し、孤立しがちな高齢者の心身のケアに取り組むとともに、孤独死・自死防止活動を継続的に行った。

#### ⑤被災児童を対象とするトラウマケア活動

避難所及び仮設住宅の集会所、保育園等を巡回し、子ども会を開催しながら、遊びやレクリエーションを通じて被災児童の精神状態の把握に務め、事前研修を受けたスタッフによる被災児童を対象としたトラウマケア活動に取り組んだ。

## IV 墨蹟事業（収益事業1）

### （1）第44回現代名僧墨蹟展の開催

全国6会場で開催。現代仏教界を代表する各宗派管長、大本山貫首、布教師をはじめ、本会の活動趣旨に賛同していただく文化人、著名人など約200名の協力を得て、直筆の掛け軸、額、色紙、短冊などを展示、希望者に頒布し、収益金を東日本大震災の被災地復興と青少幼年の支援に充てた。併せて、会場で本会発行の機関誌『ぴっぱら』を配布するなどして本会活動の広報、会員拡充に努めた。また、墨蹟法話を行い、墨蹟の意義の理解と仏教宣布・青少年教化の普及に努めた。

※開催会場：

東京上野会場	松坂屋上野店	平成23年6月1日（水）～6月7日（火）
福島会場	長楽寺	平成23年6月24日（金）～6月26日（日）
静岡会場	松坂屋静岡店	平成23年9月7日（水）～9月13日（火）
大阪会場	松坂屋高槻店	平成23年10月19日（水）～10月24日（月）
東京銀座会場	ギャラリー ノア	平成23年12月6日（火）～12月11日（日）
名古屋会場	松坂屋名古屋店	平成24年1月25日（水）～1月31日（火）

※共催団体＝読売新聞中部支社、静岡県東部青少年教化協議会、静岡県西部青少年教化協議会、福島県青少年教化協議会、大阪青少年教化協議会（開催会場により異なる）

※後援団体＝読売新聞社、報知新聞社、日本テレビ放送網、中京テレビ放送、静岡第一テレビ、よみうりテレビ、福島中央テレビ、福島民友新聞社、福島民報社（開催会場により異なる）

※推薦団体＝全日本仏教会、東京都仏教連合会、大阪府仏教会、大阪市仏教会、福島県仏教会、福島市仏教会（開催会場により異なる）

## V 管理

### （1）組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。また、各宗派の教化研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。平成17年度に全青協の活動財源を支えていただく特別賛助会員制度を新設し、23年度も引き続き広く協力を募った。会員数は平成24年3月末日現在、1040名。内訳は「会員」474名、「活動会員」305名、「賛助会員」232名、「特別賛助会員」29名。

## (2) 公益認定申請

平成20年12月1日に施行されたいわゆる公益法人改革関連3法のもとで、平成24年度中に公益認定申請を行うべく準備作業を進めた。